

はばたき

橋北小学校
学校だより
No.16
H30. 7. 12

大変暑い日が続いています。暑くても子どもたちの元気な声は健在です。夏休みまであと1週間。1学期の振り返りを丁寧に行って、夏休みも気持ちよくスタートを切ってほしいと思います。また、14日から3連休になりますので、安全に気をつけて過ごしてください。

18日、19日は1学期の個別懇談会でお世話になります。今年度から、道徳が教科になりましたので、通知表には道徳の評価が加わっております。そこで、今回はどのようにして道徳の評価がなされているかお知らせいたします。

◆道徳の評価について

評価につきましては、新学習指導要領解説に「児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすように努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」とあります。

したがって、道徳の評価については以下のようになっております。

- ① 数値による評価ではなく、記述式評価
- ② 子どもたちがいかに成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価
- ③ 個々の内容項目ではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価



②にかかわって

個人内評価とは、他の児童との比較ではなく、子どもたち一人ひとりの内部に存在する基準による評価のことです。

例えば、「Aの内容については、Bの内容より深く理解している」という評価や、「2学期は、1学期に比べて〇〇な見方ができた」という過去と現在を比較して評価する場合があります。

いずれにしても、個々の児童がいかに成長したか、一人ひとりの良い点や可能性、進歩の状況について評価しています。

③にかかわって

大きくくりなまとまりとは、学期や年間単位の継続的で幅広い道徳の学習を意味しており、おおざっぱな評価というものではありません。

着目する点は、以下のようなことです。

○一面的な見方から多面的な・多角的な見方へと発展しているかを重視します。

例えば

※働くことの目的が収入だけだと思っていた児童が、授業後、働くことは生きがいや社会に役立つためだという心の満足も大きいことに気づいたときや、討論や話し合いの場面において、自分にはない考え方や感じ方に触発されて、価値観を広げたり

深めたりする姿が見られたときなどです。

○道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかを重視します。

例えば

※勇気をもって行動した登場人物の思いを自分の経験と重ねながら、つづることができたときや、正しい行いを実行できなかった自分の弱さと向き合っ、正しいことを実践するすがすがしさを考えることができるようになったときなどです。

○授業中の取り組み状況をみます。

例えば

※道徳で学習した主人公が思い悩む場面があったとき、児童が人物の気持ちに寄り添いながら、自分の体験を交えた意見を発表できた様子が見られたときや、登場人物に対する思いや生活に生かしたいことを毎回ぎっしりワークシートに書いていた様子が見られたときなどです。

なお、道徳の授業は、読み物の登場人物の心情を問うような指導ではなく、問題解決に向けて「考え、議論する」授業を継続して行っております。「考え」とは発問に関わって、自分の考え方や感じ方をもって、心の中のものをすすんで外にあらわすことです。その考えをもとに、多様な考え方や感じ方と出合い、交流することが「議論する」ということとなります。このように道徳的価値の理解を深めていきます。

評価につきましては、前述しましたように、児童がいかに成長したか、一人ひとりの良い点や可能性、進歩の状況について行っており、児童の道徳性が養われたかどうかやどれだけ道徳的価値を理解したかを評価するものではありません。

また、評価につきましては、全校が同一歩調で行っておりますことを申し添えます。

◆交通安全キャンペーンにおける登校時の見守り、ありがとうございました！！

7月11日（水）は、交通安全キャンペーンの日でした。毎月11日にお世話になっている地域にお住いの交通安全協会の方々にはいつもどおりに、また、当日は、新浜の交差点で警察の方々も見守りいただきました。そして、PTA安全部の皆さんには3か所（旧カネカツ前の交差点、中野整体駐車場南、新浜交差点）に立っていただきました。なお、午起の鈴木さんや京町東の加納さんには、毎朝、お世話になってます。皆様、ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

当日は、職員も登校指導（きちんと並んでいるかやあいさつ等）を行いました。

